

# スタート1年。成果を報告

安曇野ブランドデザイン会議（岩淵二朗会長）は8月30日、設立1周年記念事業を穂高会館で開催し、活動報告や講演会を行いました。



## 各部会・プロジェクトの報告

安曇野ブランドデザイン会議は、安曇野の地域資源を生かした「地域ブランド」の構築と推進を図るため、昨年8月に設立され、市民が中心となった活動を続けています。組織は、環境・景観、産業、観光、地域づくり、福祉の5部会で構成されています。また、各部会には、ブランド化に向けて具体的な取り組みを行う10プロジェクトが進行しています。（左図参照）

1周年記念事業は、各部会・プロジェクトのこれまでの活動をまとめ、成果を報告するために開かれました。

報告会では、各部会とプロジェクトの代表者が、進捗よく状況や今後の取り組みについて説

明しました。また、菜の花プロジェクト、拾ヶ堰景観形成プロジェクト、ぬかくど隊などからは、市民の皆さんの参加を広く呼び掛けるイベントが紹介されました。

この日は、あいにくの雨となりましたが、約150人が参加し、今後の可能性を探りました。

## バラエティーに富んだ展示と実演

展示・実演コーナーでは、活動の概略などをまとめたパネル展示や、実際に活動で使用している道具なども展示されました。その一部を紹介します。

### （産業部会）

全国各地の名水の飲み比べができるブースが設けられ、来場者は、安曇野の水の豊かさを実感している様子でした。

### （既存商店街活性化プロジェクト）

商店街に植栽したマリーゴールドのプランターや、市内の空き店舗に展示する予定の松原弘己さんが制作したオブジェが展示されました。

### （黒豆プロジェクト）

実際に商品化した黒豆の食品を販売し、ブランド化を進める安曇野産黒大豆（信濃黒）の可能性について紹介されました。

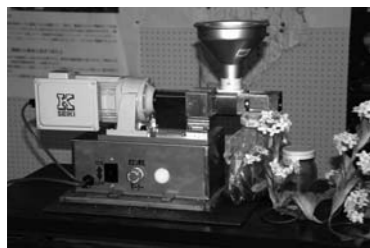
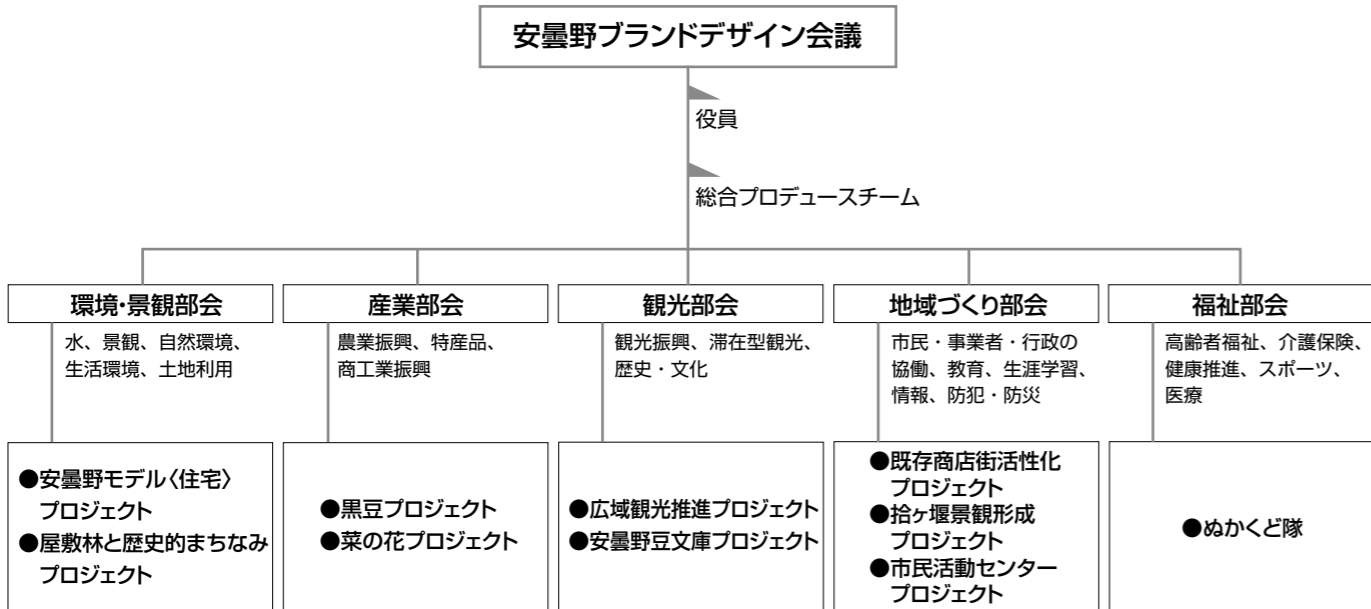
### （安曇野豆文庫プロジェクト）

豆文庫の第1弾として7月に発刊した「なつかしい安曇野へ」と、これから発刊する予定の豆文庫を展示し、観光宣伝の材料や社会教育教材としての活用を視野に入れたアピールが行われました。

### （ぬかくど隊）

穂高会館の入り口で、おにぎりが振る舞われました。このおにぎりは、もみ殻を燃料とした器具「ぬかくど」を使い、安曇野産のはぜ掛け米とわき水で作られました。来場者からは「冷めてもいい」という声がかれました。

（連載・安曇野ブランドニュース第6回は、今月のみ本ページに替えさせていただきます）



菜の花プロジェクトが展示した採油機



屋敷林と歴史的まちなみプロジェクトの展示



実際に商品化された黒豆の食品を販売

## 地域資源の集約がブランドに

ブランド総合研究所長・田中章雄さんを講師に招き、「地域ブランド成功の条件」と題した講演が行われました。田中さんは、茨城の鶏のブランド化などを例に挙げ、「地域資源を集約した魅力が地域ブランドになる」とし、全国的に魅力度・観光意欲度も高い安曇野が、今後、その機会をどのように創出していくかが課題だと強調しました。参加者は、メモを取るなどして田中さんの示唆に富んだ話を熱心に聞き入っていました。



### ぬかくど隊の展示



（菜の花プロジェクト）  
実際に作られた菜の花油の販売や採油機の展示が行われました。また、プロジェクトのコンセプトである「自給・地産地消」を広める取り組みが紹介されました。

（拾ヶ堰景観形成プロジェクト）  
シバザクラの植栽活動の展示。また、9月27日に行われるカヌー体験で使用するカヌーが展示されました。

